


# 株式会社 九州クボタ化成

## 1. 事業概要

<b>住所</b>	〒820-0062 福岡県飯塚市目尾字境田 515-10	
<b>従業員数 (協力会社)</b>	39名 (H27(2015).4.1現在)	
<b>敷地面積</b>	14506㎡	
<b>事業内容</b>	硬質ポリ塩化ビニル管の製造・水道用ポリエチレン管の製造・電力ケーブル保護管の製造	

### 主要製品

水道用 VP管・HI・VP管(耐衝撃性管)・SGR-NA管(ゴム輪受口付)・HI・SGR-NA管  
一般用 VP管・HI・VP管・SGR-NA管・HI・VP系 SGR-NA管  
無圧用 VU管(薄肉管)  
電線用 VE管・耐候二層電線管(電線管)  
下水用 SGR-NC管(下水道用)  
スーパー・フレックス(電力ケーブル保護管)  
V・フレックス(難燃性波付硬質塩化ビニル管)  
水道用ポリエチレン管(二層管)

### 工場変遷(沿革)

昭和55年	(1980)	操業開始 JIS表示工場として認可(JIS K 6741・K 6742・C 8430)
昭和56年	(1981)	日本水道協会の検査工場として認可 日本下水道協会下水道用機材製造工場として認可
昭和59年	(1984)	日本水道協会の指定検査工場として認可
昭和60年	(1985)	SGR-NA(ゴム輪受口付き管)生産開始
昭和63年	(1988)	スーパー・フレックス(塩ビ強化可とう管)生産開始
平成 2年	(1990)	V・フレックス(難燃性波付硬質塩化ビニル管)生産開始
平成 4年	(1992)	水道用ポリエチレン管 日本水道協会の指定検査工場として認可
平成 5年	(1993)	ISO9001 認証登録(日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -RA -210)
平成 6年	(1994)	V・フレックス(難燃性波付硬質塩化ビニル管) JIS C 3653(施工方法)管種に認定
平成 8年	(1996)	本社事務所兼厚生棟新築及び工場棟増築竣工
平成11年	(1999)	ISO9001 認証登録(日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -RA -210) HI管(耐衝撃性管)生産開始
平成14年	(2002)	ISO9001 認証 2000年版へ移行 (日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -RA -210)
平成15年	(2003)	ISO14001 認証登録(日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -EG -118)
平成18年	(2006)	ISO14001 認証 2004年版へ移行 (日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -EG -118)
平成21年	(2009)	ISO9001 認証 2008年版へ移行
平成22年	(2010)	ISO14001 クボタシーアイ株式会社とEMS統合

## 2.環境方針

### ISO環境方針

クボタシーアイ株式会社 及び 株式会社九州クボタ化成は、合成樹脂を原料として、社会生活に必要な水道管、下水道管などのライフラインを社会に提供しています。その活動において、地球環境の保全が人類全体の課題であり、企業にとってその対応が重要な責務である事を認識し、環境保全に不断の努力を行います。

#### 理 念

- ・私たちは、地球規模で持続的な発展が可能な社会の実現をめざします。
- ・私たちは、環境に配慮した企業活動・製品・技術を通じて、地球環境・地域環境の保全に配慮した企業活動を行います。

#### 方 針

1. 製品の設計・開発、生産、販売、物流、サービスまでのすべての段階において、環境保全に積極的に取り組みます。また、環境マネジメントシステムを構築し、継続的に改善する事によって、長期的で幅広い観点から環境負荷の継続的改善に努めます。
2. 社会の持続的な発展に寄与できる製品の開発ならびに製造を推進するとともに環境リスクの低減及び環境汚染の未然防止に努めます。
3. 私たちは、自然環境や生物多様性に配慮した企業活動に努めます。
4. 環境関連法、条例、協定及び当社が同意したその他の要求事項を遵守し取引先に対しても、環境保全活動への理解と協力を求めます。
5. 私たちは、この環境方針を実践するために環境マネジメントシステムを導入し、自主的・具体的な目標と行動計画を定めて、日常の業務を推進します。
6. この環境方針を、当社で働く人 及び 当社の為に働く人に周知させると共に、各人が日常生活においても環境に配慮した行動を行うよう、環境意識の向上に努めます。
7. 地域での環境保全活動への参画、支援に積極的に取り組み、地域との共生に努めます。またこの環境方針は、私たちの姿勢を理解していただくため、一般の人にも入手可能とします。

平成27年4月1日

クボタシーアイ株式会社  
製造部門 担当役員

汲田 康昭

### ISO認証取得状況

平成11年(1999)	ISO9001 認証登録 (日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -RA -210)
平成14年(2002)	ISO9001 認証 2000年版へ移行 (日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -RA -210)
平成15年(2003)	ISO14001 認証登録 (日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -EG -118)
平成18年(2006)	ISO14001 認証 2004年版へ移行 (日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -EG -118)
平成23年(2011)	ISO14001 クボタシーアイ株式会社とEMS統合
平成27年(2015)	ISO14001 更新審査受審(問題なく登録継続)

## 株式会社 九州クボタ化成

## 3.環境保全中期計画 目標及び実績

課題	取り込み項目	管理指標	基準年度	目標 2015年度 <sup>※4</sup>	2014年度	
					実績 <sup>※4</sup>	自己評価 <sup>※5</sup>
地球温暖化の防止	CO2の削減	CO2排出原単位 <sup>※2</sup>	2008	▲14%	▲11.9%	△
	省エネルギー	エネルギー使用原単位	2008	▲14%	▲11.8%	△
循環型社会の形成	廃棄物の削減	廃棄物排出原単位	2008	▲14%	▲69.2%	◎
		再資源化率 <sup>※3</sup>	2008	99.5%以上	99.8%	○
	水資源の節約	水使用原単位	2008	▲21%	▲9.3%	△
化学物質の管理	VOC <sup>※1</sup> の削減	VOC排出原単位	2008	▲21%	-	-

※1 VOC(揮発性有機化合物)は、排出量に占める割合が大きい、キシレン、トルエン、エチルベンゼン、スチレン、1,2,4-トリメチルベンゼン、1,3,5-トリメチルベンゼンの6物質を対象としています。

※2 CO2排出量には非エネルギー起源の温室効果ガスを含みます。エネルギー起源CO2の算定において、電気の排出係数は基準年度の値を使用します。

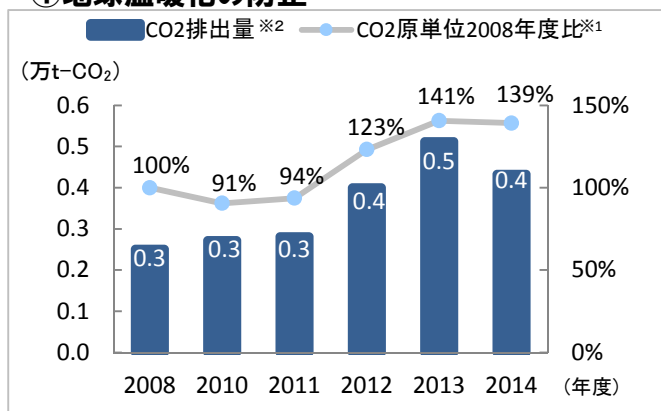
※3 再資源化率(%) = (有価物売却量+社外再資源化量) ÷ (有価物売却量+社外再資源化量+埋立量) × 100  
社外再資源化量には熱回収量を含みます。

※4 ▲は「マイナス」を意味します。

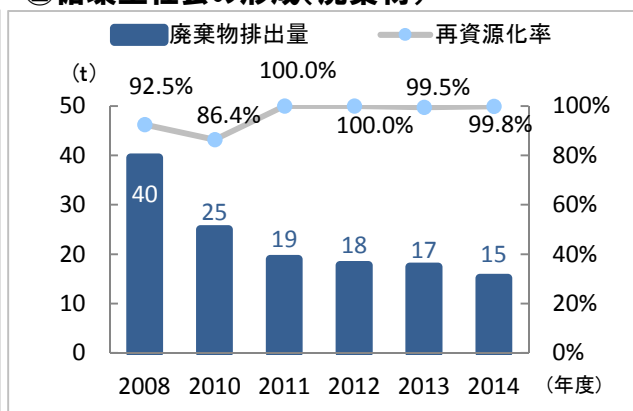
※5 自己評価の基準 ◎目標超過達成(目標を20%以上超過している場合) ○目標達成 △現状では未達成

## 4.環境パフォーマンス

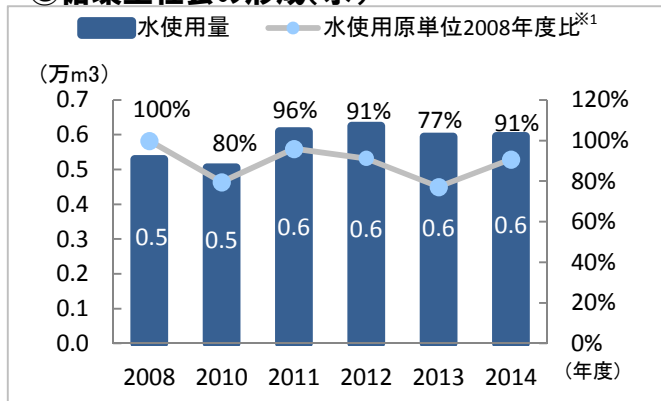
## ①地球温暖化の防止



## ②循環型社会の形成(廃棄物)



## ③循環型社会の形成(水)



※1 原単位2008年度比: 2008年度の生産金額ベースの原単位を100とした場合の割合

※2 CO2排出量はエネルギー起源のCO2排出量です。エネルギー起源CO2の算定において、電気の排出係数は各年度の値を使用します。

# 株式会社 九州クボタ化成

## 4.環境パフォーマンス(つづき)

### PRTR法対象物質の排出量・移動量の削減(2014年度)

単位：kg/年

政令 No.	物質名称	排出量				移動量	
		大気	公共用水域	土壌	自社埋立	下水道	場外移動
239	有機スズ化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2
305	鉛化合物	9.6	0.0	0.0	0.0	0.0	48

## 5.環境トピックス

- 1) 不良品発生の防止策を強化するとともにリサイクル化や有価物化も鋭意推進することにより、産業廃棄物の削減に努めました。
- 2) 電気エネルギーの効率的な使用を目的に、作業改善や運用方法の変更などに取り組み電力のピークカットを推進しています。また電灯のLED化を徐々に進めています。
- 3) 地域と共生する企業としての使命を果たすべく、工場周辺の清掃活動に毎月欠かさず参加しました。
- 4) 文房具をはじめとするオフィス用品の調達では、エコマーク表示製品の最優先購入を徹底しました。

## 6.環境コミュニケーション

### ① 地域美化活動

名称 地域工業会での清掃活動  
日付 毎月、1回  
参加人数 各社 1名



地域工業会での清掃活動

## 株式会社 九州クボタ化成

## 7. サイトデータ

## INPUT

エネルギー使用量	原油換算 KL	1,753
水使用量	万m <sup>3</sup>	0.6

## OUTPUT

CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub>	4,328
---------------------	-------------------	-------

主要ばい煙発生施設		-		
項目	単位	規制内容	規制値	測定値
排出ガス	SOx	総量規制・K値規制 ともにm <sup>3</sup> N/h	ばい煙発生施設なし	
	NOx	総量規制:m <sup>3</sup> N/h, 濃度規制:ppm		
	ばいじん	g/m <sup>3</sup> N		

排水量	公共用水域 万m <sup>3</sup>	-	
	下水道 万m <sup>3</sup>	0.2	
汚濁負荷量	COD	kg/年	-
	窒素	kg/年	-
	りん	kg/年	-

排水	放流先	項目	単位	排水口名			
				規制値	測定値		
公共用水域		pH	最小値, 最大値	-	-		
		BOD	mg/ℓ	-	-		
		COD	mg/ℓ	-	-		
		窒素	mg/ℓ	-	-		
		りん	mg/ℓ	-	-		
		六価クロム	mg/ℓ	-	-		
		鉛	mg/ℓ	-	-		
		COD総量規制値	kg/日	-	-		
		窒素総量規制値	kg/日	-	-		
		りん総量規制値	kg/日	-	-		
		下水道		pH	最小値, 最大値	特定施設なし	
				BOD	mg/ℓ		
COD	mg/ℓ						
SS	mg/ℓ						

廃棄物排出量	t	15
再資源化率	%	99.8%